

付加価値サービス強化でブロードバンド時代のビジネスを強力に支援

4つのVPNサービスを組み合わせ、ワンストップで提供するNTTコミュニケーションズの「統合VPN」ソリューション。ネットワークサービスとしての利便性向上はもちろんのこと、アプリケーションサービスやマネジメントサービスの充実にも力を入れることで、同社は企業向け通信サービス市場で確固たる地位を築いている。ここでは、その取組みの全体像を紹介する。



NTTコミュニケーションズ(株)
ブロードバンドIP事業部
サービスクリエーション部長
宮原 利行氏

企業ネットワークの主流は “適材適所”へ

企業ネットワークの潮流が大きく変化している。専用線やフレームリレーを中心としたレガシーネットワークから、IP-VPNや広域イーサネットなどのIPネットワークへのシフトに続き、現在は、これらの高品質なIPネットワークと、Bフレッツに代表される安価なブロードバンドVPNを“適材適所”で使い分け組み合わせていく複合型ネットワークが主流となりつつある。企業経営におけるICT（Information and Communication Technology）活用

が飛躍的な進化を遂げたことに加え、ネットワークサービスの選択肢が増えたことにより、企業の通信サービスに対する需要はますます複雑化、多様化しているのだ。

NTTコミュニケーションズ（以下、NTT Com）は、こうした流れを先取りし、数年前から、「統合VPN」ソリューションの取組みを進めてきた。広域イーサネットサービス「e-VLAN」、IP-VPNサービス「Arcstar IP-VPN」、企業向け「OCN」を使ったインターネットVPNサービス「OCN VPN」に加え、昨今はBフレッツなどのブロードバンド回線を使った中小規模事業

所向け簡易VPN「Group-VPN」。これら4つのVPNを“適材適所”に組み合わせ、ワンストップで提供することで新たな企業ニーズに応えてきた。更には、同社はこの4つのVPNをコアに、企業向けIP電話サービス「.Phone IP Centrex」に代表されるアプリケーションサービスや、レンタルルータを利用したマネジメントサービスといった付加価値サービスも展開してきたのだが、その進化はまだまだ止まらない。

3つの観点から利便性を向上

今後の「統合VPN」ソリューションの方向性を、ブロードバンドIP事業部 サービスクリエーション部長の宮原利行氏は次のように語る。

「強化ポイントは3つあると考えています。ひとつは、ネットワークサービスそのものをより使い勝手の良い、品質の良いサービスにしておくこと。二つ目はアプリケーションサービスの充実。VoIPなどの通信事業者ならではのサービスに加え、

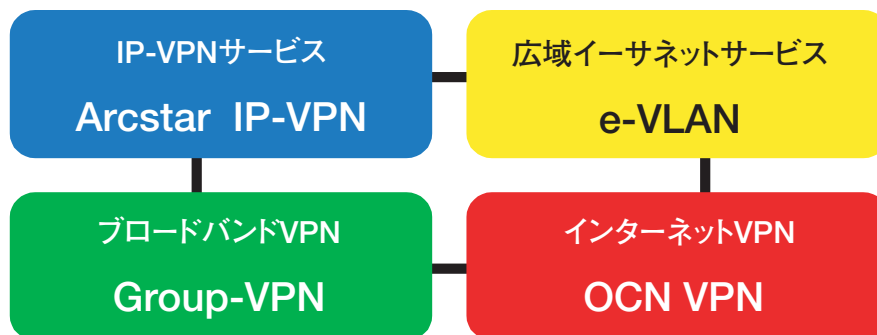


図1 「統合VPN」ソリューションのネットワークサービス

アは、もはや企業のビジネス展開に不可欠な、代表的なビジネスアプリケーションといえる。ユーザ企業はこうしたサービスをBフレツツ上でASPサービスとして利用できるようになるのだ(図3参照)。特に、中小規模事業所のICT環境整備に有効なソリューションといえるだろう。

また、インターネット上でASPサービスを展開する事業者にとっては、インターネットだけでなく、NTT Comの「統合VPN」ソリューションの顧客基盤を活かした新たなビジネス展開が可能になる。「統合VPN」ソリューションで設置されるゲートウェイに自社のASPサービス用のサーバを接続すれば、「統合VPN」ソリューション利用者に対してASPサービスを提供できるようになるのだ。NTT Comとのパートナーシップによって、顧客窓口を一本化することもゆくゆくは可能

になるだろう。

企業にとって、ASPサービスの利用には信頼性の高い通信網が不可欠といえる。信頼性が高く、バラエティに富んだネットワークとASPサービスをワンストップで提供できるところがNTT Comの強みといえるのではないだろうか。

マネジメントサービスで 高い信頼性を提供

ネットワークサービス、ASPサービスに加え、事業所内のルータなどの通信機器の管理・保守までワンストップで提供されれば、企業のICT環境にかかるコストと手間は大幅に軽減される。「統合VPN」ソリューションの根底にある思想はまさにそれである。NTT Comでは、これまで提供してきたレンタルルータなどのマネジメントサービスを更に洗練し、幅広くラインアップしてい

くことも検討している。

「複雑なネットワーク環境において、お客さまが面倒だ、管理コストがかかると感じている部分を一括してネットワークマネジメントのプロである私共にお任せいただければ、お客さまにも喜んでいただけると確信しています」(前出 宮原氏)。

また、万が一の回線故障時も、自動的にバックアップ回線に切り替わることでビジネスの中断を防ぐ、通信機器とネットワークを連携させたパッケージサービスの提供も予定しているという。企業にとっては、これまで手間をかけて確保していた通信網の冗長性を、簡便に、コストパフォーマンス良く構築できることになる。

「これからはサービス単位だけでなく、お客さまのネットワークのご利用形態に合わせて、数種類のパッケージを提供していきたいと考えています。また、ネットワークの利用状況などをお客さまにお伝えする専用ポータルサイトもより使いやすく、充実させていく予定です」(前出 宮原氏)。

オンデマンドVPNで 更なる進化を

こうして着実な進化を続ける「統合VPN」ソリューションだが、企業ネットワークの潮流は、今後どのように進んでいくのだろうか。

「今後、業種や業態の異なる企業同士が、ネットワー

◇インターネット接続オプションも併用すれば、ブロードバンドVPN構築・インターネット接続・オフィスで使うアプリケーションをワンストップで提供

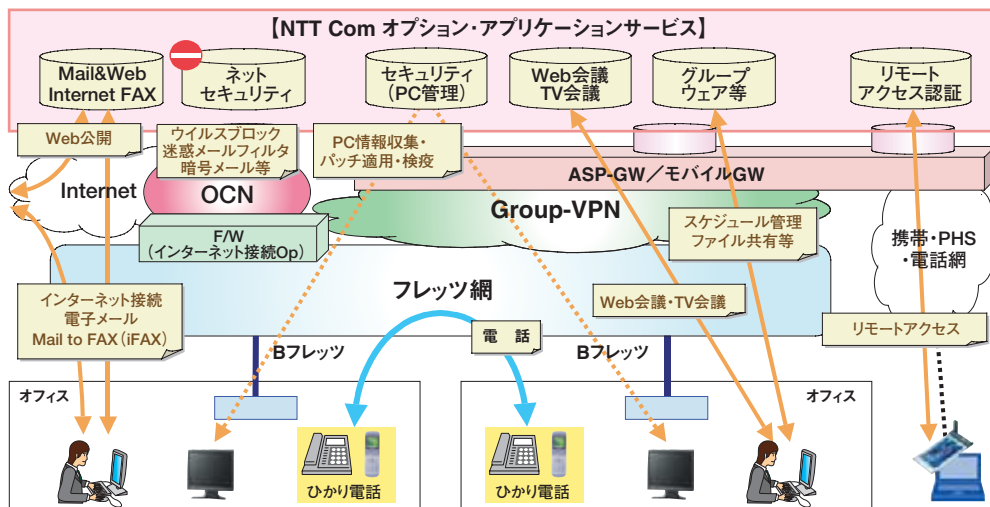


図3 Bフレツツ対応の各種アプリケーションサービスの強化

クを使ってコラボレーションしていく機会、あるいは企業内での複数VPN化がますます拡大していくでしょう。これに伴い、1本の回線で、様々な企業とVPNを構成するようなニーズが高まっていくと考えられます。こうしたニーズに対応するために、現在試験的に展開しているのが『IPv6マルチポリシー接続サービス』です」(前出 宮原氏)。

「IPv6マルチポリシー接続サービス」には3つの特徴がある。①拠点単位でなく、端末単位にVPNを構成することが可能、②コントロールパネル画面の操作により、必要な時に必要な相手と通信できるよう、オンデマンドで接続先を変更することが可能、③端末単位で接続ポリシーが設定できるため、これまで用途別・部署別などにそれぞれ用意していたアクセス回線をひとつに集約することが可能、の3点である。こうした機能により、拠点間・企業間な

- ・端末単位またはセグメント単位で通信相手や暗号化など、個別にセキュリティを確保
- ・セキュアに通信する相手を随時変更可能
- ・1本のアクセスラインの中で、ポリシー(CUG)の追加変更を簡単に設定

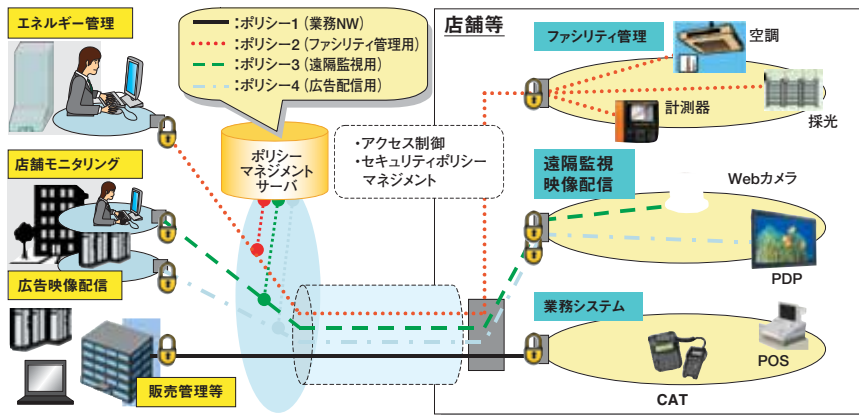


図4 「IPv6マルチポリシー接続サービス」の概要

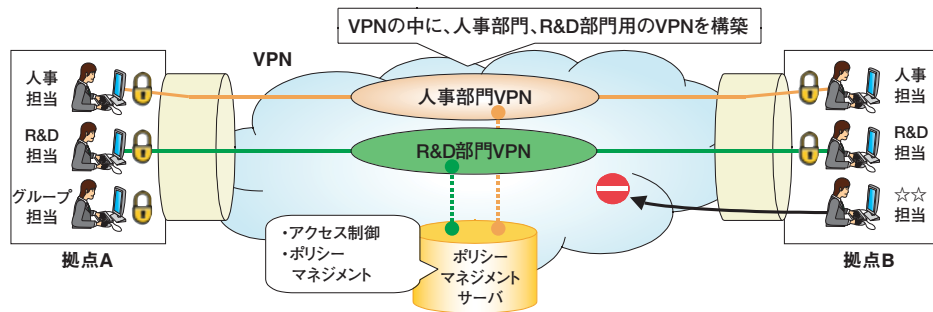


図5 “VPN over VPN” のイメージ

ど複数のネットワークにまたがる端末間でもオンデマンドで容易にVPNが構築できるため、企業にとっては新たなコラボレーションを展開する上で強力なICT基盤となるだろう。また、1本の回線で複数のVPN形成が可能な点を考えれば、ビルファシリティ管理やエネルギー管理、店舗モニタリング、販売管理などを行う管理会社での利用が有効だと考えられる(図4参照)。現在このサービスは、試験サービスとして提供されており、今年度末までにはテストフェーズを終え、本格サー

ビスへ移行する予定である。

さらにこの「IPv6マルチポリシー接続サービス」で使用している認証技術を応用し、企業内の閉域網の中に、さらに業務や部門単位でのVPNを形成していくような使い方も検討されている。

「私どもは“VPN over VPN”という呼び方をしていますが、拠点単位のVPNの中に、複数拠点にまたがる人事部門同士のVPNやR&D部門のVPNを形成していくようなイメージです。企業におけるビジネスプロセスの複雑化やワークスタイルの変化にオンデマンドで対応することができるため、将来的には有望な技術だと思っています」(前出 宮原氏)。

拠点単位のVPNから、端末単位のVPNへ。こうした発展を遂げたとき、「統合VPN」ソリューションは企業経営に新たなインパクトをもたらすことになるだろう。

「統合VPN」ソリューション：
<http://www.ntt-vpn.com/>